

Vol.171 中国、九州、四国、3,600 キロの旅の中から
～ Part 2 ～ (平成 21 年 11 月 10 日)

前号では 3,600 キロの旅を 1,200 字の中に凝縮させて頂きましたが、今回は説明不足だった事を補わせて頂きます。

何よりも旅を終え君津へ着いた夜、家族社員達が古くからある近くの飲食店へと誘ってくれました。いつもこの店で食べている煮魚、刺身、餃子、とんかつ等でしたが思わず「千葉はうまい！君津の味は日本一だ！」と思いました。

帰宅する夜の町並みは、西国のどこの町よりも光輝き活気がありました。

君津は不況の中で、すでに稼働率 80%を超えた新日鐵のある元気な城下町であり、下半期では 3 百億円位の黒字だと私は思っています。

農村部も水と緑に恵まれ、農家も市街地も他県に比べて極めて豊かな生活環境にあると感じました。この旅の中で元気だな？！と感じられた地域は四国でした。

まず目についたのは瀬戸内海を跨ぐ 3 大橋の着岸地にかなり巨大投資がされており、競って四国活性化の意欲を感じられました。

旅から帰ってすぐ流通ジャーナリストの金子哲雄先生とお会いしましたのでこの感想を話しましたら「秋元さん、あなたが前々から提唱されている『地域循環経済』を四国は立地条件もあって、地元地域で購買が多いので購買力が他へ流出せず、地域内で循環するので地元経済が豊かになり、働く場所を失わないです・・・商売はおよそ 30 年で 5%しか生き残れません。商売が長続きするコツは、地域の人達に愛され、信頼される人柄、思いやりを大切にすることです。この心があれば人は自然と集まってくるものです。」と言い添えてくれました。旅する人の心も同じだと思います。

旅とは疲れた心を大自然や古い歴史の中に癒したいと求めてくるのですから、お金で買えない物を私達は提供しなければならないと存じます。

観光と宿とは密接な関係があります。

全国の宿の利用率を見ますと、関東 74%、近畿 70%、北陸 68%、四国は 60%でしたが、今年の利用率を伸ばしたのは四国だけで、他は全部マイナスでした。

E T C 割引、ネットによってバスツアー団体客が激減して、夫婦、個人、家族連れへと客層が変わり、奈良、京都を除いた老舗旅館の利用率が低下して、また倒産や廃業が多くっております。

一つの傾向として、青森ねぶた、秋田竿燈、盛岡さんさ、山形花笠、仙台七夕等伝統的祭りへの志向が多いのも一つの特徴の様です。

四国は「眉山—阿波踊り」かな？とふと考えました。

今度の旅行で不安だった事はガソリンスタンドが減って、久住高原、阿蘇山系での給油に悩まされました。

「道の駅」増設が望まれる様にガソリンスタンドが併設されると好都合です。道の駅を観光市街地の中にも設置をとの希望が多いと聞きました。観光客は女性客が主流ですから女性に気に行ってもらえる宿泊メニュー、買物、お土産も女性達の好みの小物、銘柄を選んで品揃えの工夫努力が大切だと感じました。

この秋の観光客は不況、インフルエンザで 50%減と予想されます。

この房総は天の時、地の利があります。

どうか会議所の「きみなび」をご利用ください。